

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については、フロアに掲示し、入社時研修にて共有しています。運営について難題に達した際に、理念に立ち返るよう指導しています。	法人独自の理念を検討し、玄関や休憩室にも理念を掲示しているほか、入社時に理念を説明するなどして、理念を実践できるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて、行事等の参加は自粛させて頂いていますが、地域の方からのご挨拶して下さっています。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であればご利用者と一緒に地域の避難訓練に参加しているほか、地域の方と交流の機会を持てるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、地域の方へ向けて発信する機会がありませんでした。情勢を見ながら今年度は行えるよう努力していきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数不足しています。	運営推進会議は地域代表、地域包括支援センター職員、市の担当者などへ書面にてホームの状況報告を行っていますが、令和2年6月の開催から行えていません。	調査時点で年に6回の運営推進会議の開催ができておりませんでしたので、今後定期的に開催できるように調整されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況等、広報誌を提出しています。	市の担当者や包括支援センター職員には運営推進会議のメンバーとしてアドバイス頂いているほか、広報誌も届けるなどして連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時研修にてマニュアル確認し、3か月に一度のマニュアル確認と共有をしています。また、不適切ケアに関しても研修にて取り入れていく予定です。(現在職員会議休止中のため、管理者から個々に伝えていません。)	事業所として身体拘束をしない方針を徹底しており、玄関の施錠も夜間のみとしています。入社時に身体拘束についての研修を実施し、事業所でも検討の機会を設けるなどし、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、入社時にマニュアル確認し、3か月に一度のマニュアル確認と共有をしています。(現在職員会議休止中のため、管理者から個々に伝えています。)	職員の言葉遣いについて検討の機会を設けたり、事業所でも意識調査テストや入社時に研修を実施するなどして虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、関係者からの問い合わせに、市への相談等行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご相談は、都度お伺いしています。意見等頂いた際は、管理者対応し、できる限り反映できるように努めています。また、状態の変化があった場合等、迅速にご連絡しています。	ご家族とは面会時や電話にて気付いたことや要望は無いか確認しています。また、状態の変化をご家族に説明し、ご家族の介護計画への意向を確認するなどし、率直な意見を収集できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする機会を多く設け、各自職員が努力していることを把握。困っていることをフォローするよう努めています。職員個々の良い所を伸ばしていけるような環境作りを目指しています。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、職員同士で検討が行われ、改善に向けた取り組みが行われています。また、管理者が職員との面談も実施し、職員の声をより把握できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所に来所し、現状把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(zoomでの参加)は、参加するよう努めている。参加者は復命書を作成し、職員全員に共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の影響にて、管理者会議は休止中です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が、面談にて話す機会を設けています。他、職員がコミュニケーションの中で、不安なことや要望を聞き出せるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込や契約時だけではなく、来所時や電話にて要望をお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在行える支援を、可能な限り対応することを伝え、ニーズに寄り添えるよう対応することに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「待つ」ことを大切にし、過剰な介護は行わないように努めています。役割を持って下さったり、常々職員と談笑されています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各入居者様とご家族様には、様々な関係性があり、柔軟に対応させて頂いています。入居者様とご家族様の気持ちに寄り添うよう対応させて頂いています。	ホームでの活動の様子をまとめた事業所広報及び居室担当者からの個別のお便りの送付を毎月行い、ご家族に活動の情報をお伝えしています。また、ご家族には面会時にご利用者の状況を伝えているほか、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症流行の影響で、頻度減少、制限はあります。地域の知人、友人の面会。居住区への外、慣れた美容室の利用を情勢を見ながら行っています。	ご家族や知人に面会に来ていただいたり、ご家族にもご協力を頂きお墓参りやご自宅にも出かけています。また、これまで利用していた馴染みの美容室を利用したりと、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	精神状態より変化されますが、様子を観ながら職員が、会話の橋渡しをする等対応させて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様ご家族様からの問い合わせには、柔軟に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや、言葉から把握に努めています。ご家族様にもご自宅での生活状況を伺って対応させて頂いています。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われているほか、介護計画検討時には要望を確認し、ケアプランの検討に活かしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経歴、在宅時の様子、性格など把握し、暮らしやすい環境作りを、入居者様、ご家族様とも相談しながら実現できるよう努めています。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてご利用者の生活歴や性格、趣味などの情報を確認し、個別のフェイスシートが作成されています。また、定期的にあセスメントを行い、情報の見直しも行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員に感性の重要性を指導し、様子観察と状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が、毎月のモニタリングにて、計画作成担当者と共有しています。また、計画作成担当者が入居者様、ご家族と話し合い、介護計画を作成しています。	介護計画は計画作成担当者がご利用者の状態に合わせた目標を設定し作成しています。短期目標の期間に合わせてモニタリングを実施し、必要に合わせて介護計画を見直しています。	調査時点でサービス担当者会議録の開催回数が未記入の議事録もありましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がケース記録に記入。また気づいたことなど共有するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響にて、外部支援は制限をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠方のご家族様やご自宅の地域の方とのつながりは、新型コロナウイルス感染症の影響で少なくなりましたが、電話にて会話されています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へご家族のご協力を頂き受診されています。毎回、情報提供票提出し、グループホームでの生活状況を伝えるように努めています。	必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表をご家族に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の在籍、訪問看護の利用はありません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報提供は、管理者ならびに計画作成担当者が、対面にて必要な情報提供しています。また退院時には協力医療機関関係者より、状態のご連絡を頂き、話し合う機会が設けられています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しが見られる場合、早い段階でリスクについて説明を行い、受診を依頼しています。状態の変化が見られる都度、ご家族様と相談しながら方針を決定させて頂いています。	契約時にホームとして看取りや重度化した場合における対応の考え方をご家族にも説明しています。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医と連携し支援していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員、普通救命講習受講済み。昨年入社職員もあり、今年度更新予定です。	職員は普通救命講習を受けており、ご利用者の急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業所内で実施。管轄消防署と相談しています。	日中や夜間の火災を想定した避難訓練が行われています。緊急連絡網も作成されており、災害時に適切な対応ができるようにしています。	調査時点で緊急連絡網が実際の職員状況が反映されていないものでしたので、職員の採用等に合わせて見直し、災害時への対応を強化されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様のプライドや羞恥心をくみ取り、対応させて頂いています。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員に周知されています。また、事業所広報への写真の掲載についても書面にて同意を頂いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなられた方もいらっしゃるが、選択肢を用意したり、わかりやすく説明し、自己決定できるよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動かない様、「待つ」ことを大切にすることを指導しています。入居者様のニーズに合わせた対応を全員が共有できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、ご自分で選んで頂いています。また化粧品等、ご自分のお好きなように選んで購入されています。定期的にかット等のご希望を聞き、地域の美容室に来て頂いたり、行きつけの美容室へ出かけられています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、調理レクは個人でできるものを行っています。職員と一緒に談笑しながら行っていらしゃいます。	週に1度調理レクを行い、ご利用者にも野菜の皮むきや料理の下ごしらえ等も行ってもらっています。また、ご利用者の要望に合わせて入浴後にノンアルコールビールを飲まれる方もいるなど、ご利用者に食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態を考慮し、定められた時間に限らず、水分や補食を召し上がって頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのタイミングや回数は違いますが、声掛けや付き添い等で対応しています。かかりつけ歯科医へ定期健診をされている方もいらっしゃいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷つけないように、配慮した対応しています。	ご利用者全員の排泄チェックを行ない、ご利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳酸菌飲料等、を食事に取り入れています。また1日2回行っている体操に参加して頂いたり、近隣の散歩を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数は決めず、ご本人の要望を聞きながら入浴して頂いています。	ご利用者に合わせて同性介助を行ったり、入浴を嫌がるご利用者にもうまく対応し入浴して頂けるようにし、ご利用者に入浴を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の制限等は設けず、入居者様のタイミングで静養して頂いています。就寝前、ヒーリングミュージック使用や、就寝前の暖かい飲み物提供等行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	頓服薬は重点的に副作用について共有。日々のバイタルや様子等把握し、変化あれば報告し、迅速に対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理レクや日々の家事にて、入居者様が主役になれる機会を作れるよう努めています。また、入浴後のノンアルコールビールなど、希望されることをできるだけ対応できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルス感染症拡大にて、外出自粛中ですが、以前は外食、外出など多く取り入れていました。毎月最低2回以上の外出ができるよう努めていました。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、ご利用者と一緒に近くのスーパーに買物に出かけたり、個別外出や季節に合わせてお花見や紅葉狩り、初詣に出かけたりもしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、1万円程度はご自分で管理されている方はいらっしゃいます。それ以上の場合、お預りし、手持ちが少なくなったら、お渡ししています。また、現在職員が買い物代行していますが、今後移動スーパー来所予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話使用されている方もおり、規制等はありません。ご家族や知人への連絡については、ご自由にして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年中一定した空間にしない様、努めています。衣類の調整などして頂けるよう、空調は控えめに使用。居者の配置は、入居者様の希望を聞き、対応させて頂いています。	共有スペースは広々とした造りになっており、ホームの壁には日々の活動の写真が掲示され、活動の様子が分かりやすくなっています。また、ご利用者の作品を掲示するなどし、ご利用者が居心地よく過ごせるようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士のトラブルにて環境整備をしながら、共有空間の様様替えを行っています。また職員が自発的に季節の花を活けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものでなく、使い慣れたものや写真等を持参して頂いています。配置等も入居者様と相談し、可能な限り対応させて頂いています。	居室には、使い慣れた家具などを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に写真や表札を取付ています。施設内バリアフリーのため、廊下で歩行練習など自発的に取り組まれていらっしゃいます。		